

牛久：学校周辺に見る自然

第1号 ひたち野西近隣公園

2015年10月15日発行

＜動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ①花に来る虫たち その1. チョウ・ガ＞



秋らしくなってきた9月24、29日、ひたち野うしく小3年生の皆さんとみずべ公園を歩きました。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回もテーマにそった観察ビンゴカードを手に、いろいろな生きものたちのいろいろな暮らしを観察しました。その一部を紹介していきましょう。まずは花の蜜や花粉を求めてやってくる虫たちから、チョウやガの仲間。



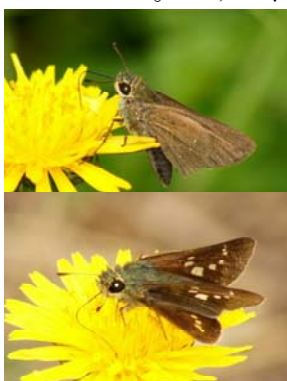
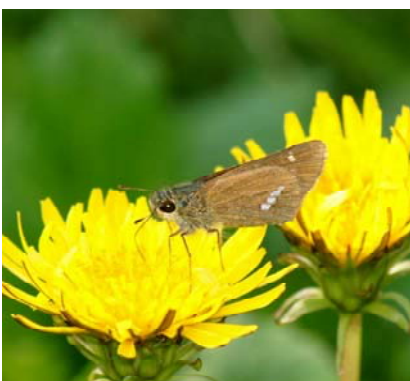
カタバミの小さな花が咲いていました。するとヤマトシジミやキタキチョウなどがやってきて、花から花へと蜜を吸っていきます。カタバミは、ヤマトシジミの幼虫が葉を食べる植物でもあります(このような植物を「食草」といって、モンシロチョウの幼虫ならアブラナの仲間というように、それぞれ幼虫の食べるものが決まっています)。

カタバミの蜜を吸うヤマトシジミ(左上)とキタキチョウ(左下)。カタバミは、ヤマトシジミの食草でもある。



セイヨウタンポポでも、キタキチョウが蜜を吸っていました。日本のキチョウは以前は1種類とされていましたが、DNAを調べた結果2種類いることが分かり、九州南部～沖縄の南西諸島にすむものを「ミナミキチョウ」、それより北のものを「キタキチョウ」と呼ぶようになりました。でも見た目はそっくりなので、両方がすむ地域では困ってしまいますね。チョウたちはどうやって見分けているのでしょうか？

近くのタンポポには、セセリチョウがたくさん来ていました。ですが、よく見ると1種類ではありません。はねの白い斑点もよりの違いなどで見分けられるのですが、同じ種類でも少しずつ違っていて、逆に別の種類なのに似たもようになって判断しにくい場合もあります。だからこそじっくりと、よ～く観察しないとイケないのですね。



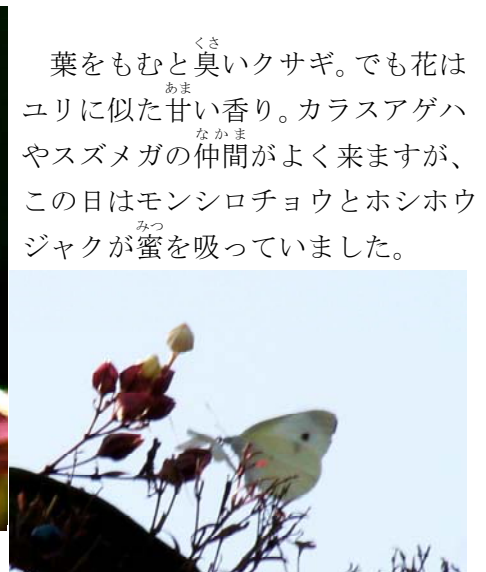
セイヨウタンポポの蜜を吸うキタキチョウ(上)と、イチモンジセセリ(下左)、チャバネセセリ(右上)、オオチャバネセセリ(右下)。



イチモンジセセリが、ハッカでも蜜を吸っていました。ハッカの葉はもむとすうーとした香りがしますが、蜜はどんな味なのでしょうね？

近くのみずそばはほぼ満開で、ツバメシジミなどが蜜を吸っていました。シジミチョウの仲間は、表と裏ではねの模様や色がずいぶんと違います。

ハッカの蜜を吸うイチモンジセセリ(左上)と、みずそばの蜜を吸うツバメシジミ(下2枚)。

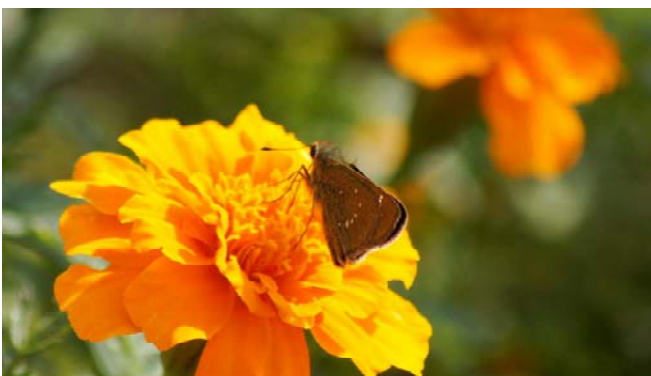


葉をもむと臭いクサギ。でも花はユリに似た甘い香り。カラスアゲハやスズメガの仲間がよく来ますが、この日はモンシロチョウとホシホウジャクが蜜を吸っていました。

クサギの蜜を吸うホシホウジャク(左)とモンシロチョウ(右)。

校庭でも、きれいな花が咲いていればチョウやハチがやってきます。遊ぶのにくたびれたら、ちょっと花だんの花にも目を向けてみましょう。一所懸命に暮らしている虫たちの姿が見られるかもしれませんよ。

【理科支援員：宮内】



マリーゴールドの蜜を吸うチャパネセセリ(左)とツルレイシの蜜を吸うヤマトシジミ(右)。